



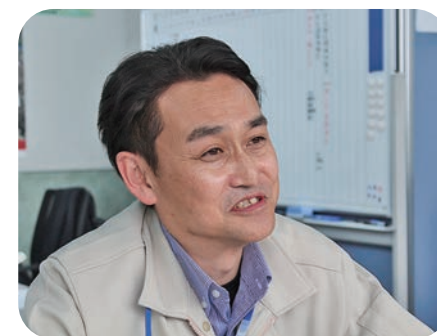
我が社の現場紹介

わがしゃのげんばしょうかい

堺泉北港汐見沖地区岸壁(-12 m)上部工等工事
施工者：大本・セイホ特定建設工事共同企業体

||||| 工事概要 |||||

発注者 国土交通省近畿地方整備局
施工場所 大阪府泉大津市夕風町地先
工期 2024年11月11日～2025年10月10日



大本・セイホ特定建設工事共同企業体

所長 蒔苗 健さん
まかなえ・たけし

Questions
&
Answers



株式会社大本組 大阪支店管理部

藤井 祐那さん
ふじい・ゆうな

中古車輸出に対応した岸壁を整備

西日本エリアの中古自動車の輸出拠点となっている堺泉北港(大阪府堺市、高石市、泉大津市)の汐見沖地区で新たな岸壁と背後ヤードの整備が進行している。汐見沖地区と助松地区に分散する中古自動車の取扱いを汐見沖地区に集約することによって、今後も見込まれる取扱い台数の増加に対応していくことが狙い。RORO船の大型化にも対応して水深12mの新たな岸壁を延長300m整備する。その一環で国土交通省近畿地方整備局が発注した「堺泉北港汐見沖地区岸壁(-12m)上部工等工事」が現在、大本・セイホJVの施工で進められている。現場を束ねる大本組の蒔苗健所長を同社大阪支店管理部の藤井祐那さんが訪問し、現地で進む工事の様子取材した。

海工業地帯を抱えています。国際拠点港湾であり、大規模災害時には広域防災拠点の機能も担います。また、公共ふ頭整備による商港機能の向上により、西日本一の取扱量を誇る中古自動車の輸出拠点となっており、RORO船の大型化や航路の増便が予定されています。汐見沖地区では、中古自動車の取り扱いヤードの集結と取扱い台数の増加に対応するため、水深12m、全長300m、15スパン岸壁の整備が進行中です。



現場事務所で工事の説明を聞いた

藤井 今回の工事の目的と内容を教えてください。
蒔苗 堺泉北港は、背後に石油、化学、ガス、電気などの企業が集積し、大規模な堺泉北臨

点群データで鋼管杭の位置把握

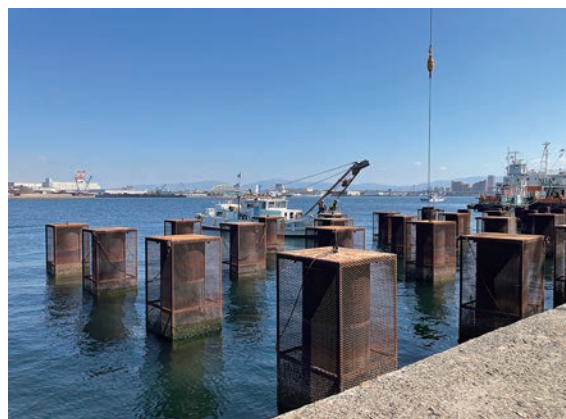
蒔苗 大本・セイホJVが施工している今回の工事では、先行工事で打設した鋼管杭の上部に3スパン、60mのRC構造の上部工を築造します。海中の基礎工、被覆・根固工3スパン、60mも施工します。

藤井 工事の特色を紹介して下さい。

蒔苗 基礎工、被覆・根固工では、仮置き場に仕分けした石材を起重機船に積み込み、海中の所定位置に投入します。投入した石材は、潜水士が均します。大きな石は陸上のクローラークレーンでつり上げて、移動させながら作業します。鋼管杭の上に構築する上部工は、



投入する石材を陸上でふり分け



被覆石均し状況

海上で型枠支保工を組み立ててコンクリートを打設します。1スパン20m×20mの広さで構築します。

藤井 現場のDX活用策を教えてください。

蒔苗 上部工を行う上で、先行工事で打設した鋼管杭の正確な位置を把握する必要があります。従来は海上の船から光波測距機やステーションを使用していたり、地上に配置したレーザースキャナーから取得した3D点群データを生成することで鋼管杭の位置を測定する方法を用いていました。これにより、海上に行かずに安全に短時間で正確に測定することができました。

今回の工事は発注者が指定するBIM/CIM対応工事となっていますので、3Dモデルによるデータの活用や共有にも取り組んでいくことにしています。

藤井 現場の体制はどのようなになっていますか。

蒔苗 所長・監理技術者の私、現場代理人、主任技術者、担当技術者の4人で構成しています。常駐する女性職員はいませんが藤井さんには支店管理部の立場で事務担当として現場の立ち上げ時から支援してもらっていることを感謝しています。

藤井 時間外労働の上限規制が適用された2024年4月以降に着工しています。働き方改革にはどう取り組んでいますか。

蒔苗 この工事は発注者指定の休日確保評価型の試行工事でもあります。着工後、天候にも恵まれて土日祝日の休暇は順調に取得できています。ただ、海上工事は荒天で作業ができない日が陸上工事よりも多く出てくると予想されます。そうした中でも4週8休を確実に

達成できるように工程を組み立て、現場に従事する人たちが仕事と家庭を両立できる現場運営に取り組んでいきたいと思っています。

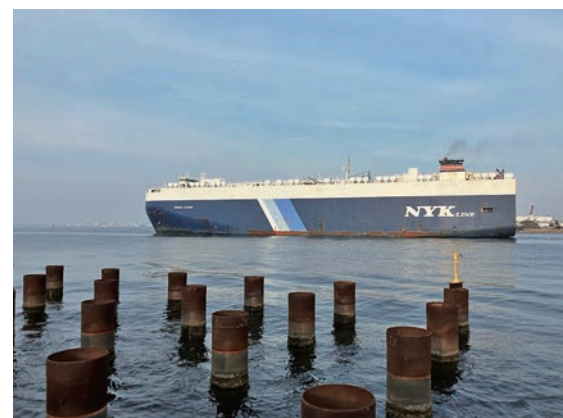
藤井 若手職員の育成の取り組み方針をお聞かせ下さい。

蒔苗 着工当初から入社2年目の職員が配属となりました。彼が前の現場で経験したICTを活用した「スマートワーク」をこの現場でも取り組めるよう、そのための準備や運営を担ってもらっています。着工時から従事している現場でもあり、工事の最初から終わりまで基本的な流れを経験できるチャンスでもあります。測量や写真管理など施工管理で忙しい中ではありますが、会議や打ち合わせにもできるだけ多く参加できる機会を作っていこうと考えています。

自分が携わった工事が目に見える形で出来上がると、多くの人たちに利用されるようになります。そうした建設工事のやりがいや若手にも実感してほしいですね。

藤井 これから上部工の施工も本格化すると思います。完了に向けた意気込みをお聞かせ下さい。

蒔苗 今回の工事は整備する岸壁の真ん中の工区です。他工区との調整も重要になってくると思います。事故無く工期末を迎えられるように、これからも安全第一で施工に取り組んでいきます。働く人たちが安全で快適に働くことができる現場運営に徹していきます。



中古車を輸出するRORO船

取材を終えて

入社以来、港湾工事の現場に行くのは今回が初めてでした。所長から詳しく工事について説明を聞ける良い機会となりました。特にICT活用で海に入らずとも地上から3Dの点群データを生成して海上の鋼管杭の位置を測定した話を聞き、現場のICT活用が進めば事故等を未然に防ぐことができることを実感しました。

気象、海象の影響を受けやすい過酷な環境の中で工事を進める現場の方々に改めて尊敬の念を抱きました。今後、本格的に工事が進んでいきますが、少しでも現場の力になれるよう、私自身も成長していきたいと思います。そのためには、建設業についての知識を得て、経理などさまざまな面から精一杯サポートできるように幅広く勉強したいと考えています。

この度は貴重な機会を頂きありがとうございました。
(藤井祐那)



工事の状況を見学



現場の皆さんと